

世界原子力発電事業者協会(WANO)第4回隔年総会について

第4回隔年総会の概要

※全世界の原子力事業者の責任者が集う総会は、隔年に開催され、原子力発電全般に関し、幅広く意見を交換。これまでにアトランタ、東京、パリで開催。

- 期 間 平成9年5月12日～13日までの2日間
- 開催地 プラハ(チェコ)のヒルトンアトリウムホテル
- 出席者 世界各国の加盟事業者の代表ら約400人
[日本からは電力各社、日本原電、電中研、動燃、電事連の代表が参加。]

○主要議題

★WANO議長レミー・カール氏による議長報告

★パネルセッション1 テーマ【WANOプログラムの活用経験】

★パネルセッション2 テーマ【発電所管理者が直面している最近の問題】
「柏崎刈羽6,7号機開発から得た教訓」と題し、
東京電力 池亀副社長が講演

★パネルセッション3 テーマ【紀元2000年におけるWANOの在り方】
東京電力 荒木社長が代表講演

★招待講演 テーマ【バックエンド・オプションと放射性廃棄物】
「将来の原子力についての日本の考え方
～リサイクル政策を中心に～」と題し、
関西電力 秋山社長が講演

★役員の交替

議長(新)	ザック・ベート氏	(米国原子力発電事業者協会理事長)
(旧)	レミー・カール氏	(旧電力会社元副議長)
総裁(新)	アラン・カブシス氏	(イタリア・エナエル社長)
(旧)	エリック・ボツディシェフ氏	(フランス・エナエル・アトム総裁)

★次回開催 1999年9月19日～21日、カナダのビクトリアで開催

※なお、今回の総会で、新たにカザフスタンのアクトウ発電所と日本の動燃がWANO憲章に調印し、メンバーとして登録。

WANOの概要

○世界原子力発電事業者協会 (World Association of Nuclear Operators)

設立の経緯

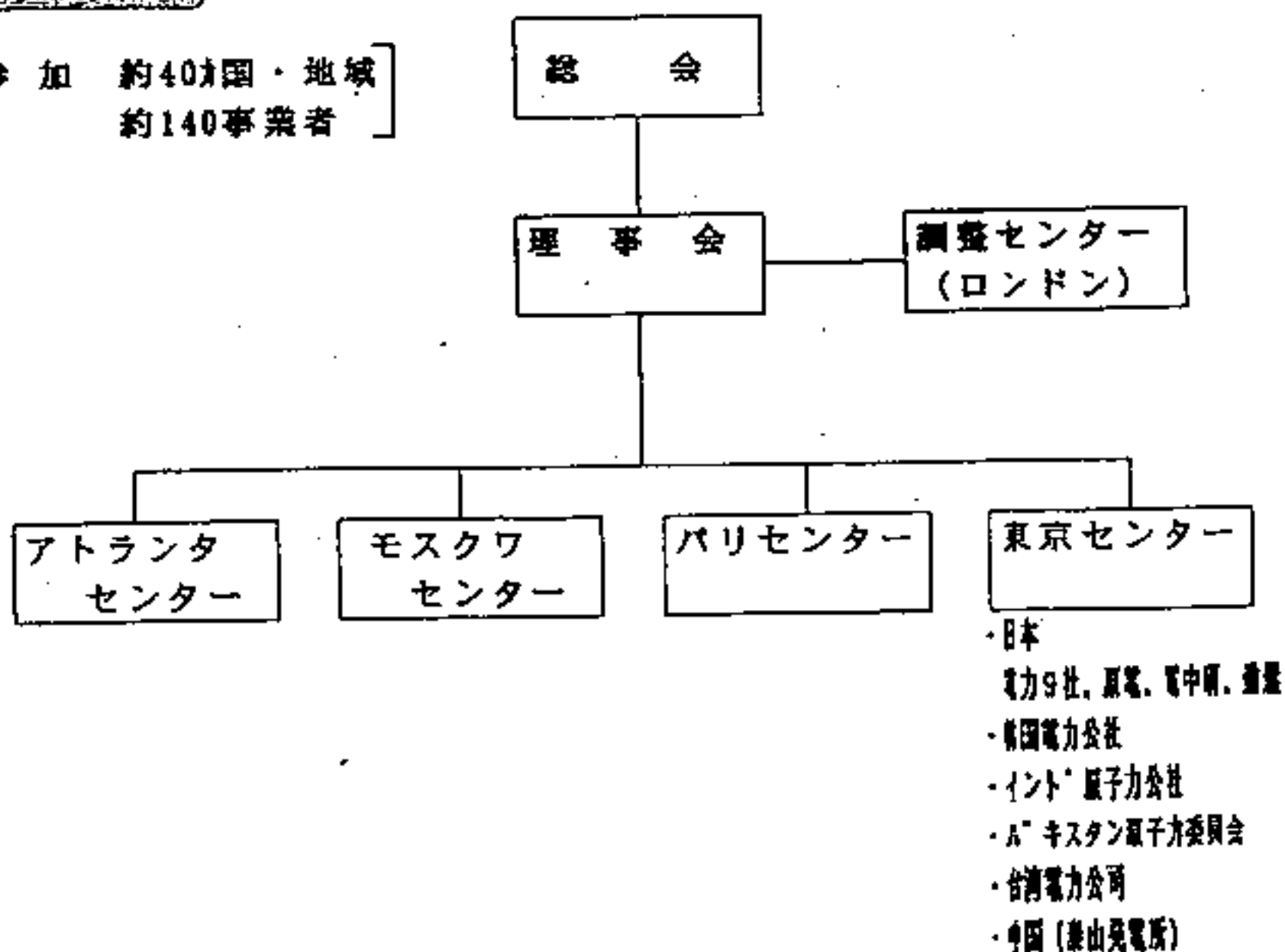
チェルノブイリ事故後、英国の当時中央電力庁 (CEGB) 総裁だった故マーシャル卿の提案で、世界の原子力発電事業者が原子力発電の安全性向上を目指して、お互いに運転実績などの情報交換をしようと、1989年5月に設立。

主な活動

- ・ 運転管理やトラブル事象に関する情報の相互交換
- ・ 事業者相互の交換訪問による直接的情報・技術交換
- ・ 良好事例、運転指標の相互交換

組織の概要

参加 約40か国・地域
約140事業者



FBR サブグループの設立について

日 時：5月13日 16:15～17:30

出席者：サラエフ：BN-600 所長

ナザレンコ：BN-350（カザフスタン発電石炭省）

ツクートフ：モスクワ・センター

エリ：フェニックス所長

マニオン：スーパーフェニックス所長

ハムリン：ロンドン WANO 事務局

ベラ：パリセンター

カール：WANO 議長（途中より）

桂川、金子：動燃

議 事：パリセンターのベラ氏が議長役となり、会議進行

1. これまでの経緯として、カール氏からの提案をボツジシェフ会長が支持し、BN-600 のサラエフ氏の同意を経て、開催された。
2. 各自己紹介の後、サブグループについての各自の見解を述べた。全員設立には、賛成したが、サラエフ氏から、旧ソ連圏では金がないのでそれを考慮してほしい旨の要求がなされた。
3. 仏より、日仏、仏露でそれぞれ協力があり、それと重複しないようにしたいとのコメントがあった。
4. サラエフ氏より、BN-600 が順調に動いており、稼働年数も長く、すべての経験をもっているが、FBR の事故はメディアが大きく取り上げることもあり、このサブグループを支持するとの意見が表明された。

5. 会議の結論

- ①サブグループを設立することに合意した。
- ②他の協力との重複をさける。
- ③サラエフ氏が議長をつとめる。
- ④ WANO のセンター事務局（ロンドン）が事務局をつとめる。
担当ハムリン氏
- ⑤資金は、滞在費は受入国が負担し、旅費は各自負担する。
ロシア、カザフスタンについては、WANO センターで別に検討する。
- ⑥対応者は各炉の所長とし、議長のサラエフ氏が1カ月以内に協力の内容について提案する。（次回の開催も含む）

WANOの主な活動

1. 計算機ネットワークによる情報の交換

WANOのもっとも基本的な活動で、全世界を計算機ネットワークで結び、発電所についての情報を事業者間で迅速に知らせ合おうというものである。米国INPOのホスト・コンピュータを用い、各事業者は直接または地域センター経由で各種の情報をこの計算機を通じて交換する。このネットワークを通じて事業者間の問い合わせ、通知等も広くおこなわれている。

2. 交換訪問

特定の発電所と発電所が互いに訪問し合うもので、WANOの設立以来活発に行われ、大きな成果を挙げている。特に、チームのメンバーを原則として発電所の職員としたのが画期的なことであり、直接運転に携わるもの同士の率直な意見交換が行われている。

3. セミナー・ワークショップ

主に技術的な経験やデータ、分析結果等を会員間で交換するために、セミナーやワークショップが開催される。当初は地域センター単位で開催してきたが、共通の問題については全地域センターのメンバーが集まって議論したほうがよいとの声が高まり、1992年度から年に数回程度、全ての会員に参加を呼びかける地域間セミナーも開かれるようになってきている。

4. 運転指標

プラントの運転全般について互いに状況を知らせ合おうというのが運転指標である。各発電所は定期的に10の項目(ユニット利用率、計画外停止率、臨界7000時間当たりの計画外自動スクラム、安全系の性能、熱的性能、燃料の信頼性、集団線量、低レベル放射性固体廃棄物量、化学指標、作業に支障をきたすような人身事故の割合)についてデータ提供することになっている。これによって他の発電所の運転状況を知ると共に自己の発電所が他の発電所と比べてどのようなランクにあるかを知る事が出来る。

5. 良好事例の交換

各発電所には、それぞれが工夫して日常の業務を実施し、良好な実績をおさめた経験がある。それらを互いに知らせ合ってより広く活用しようというのが良好事例の交換である。単独に各会員から集めることもあるが、セミナー・ワークショップやピアレビューを通して収集される。

6. ピア・レビュー

ピアとは気のおけない仲間をさし、ピア・レビューはWANOの仲間同士で編成した国際チームで要望のある特定の発電所を訪問し、自由に率直な意見を述べあい、良い点は他の発電所でも活用出来るようWANO良好事例として広く周知せしめ、また要改善点は発電所が自発的に向上に役立てようとのプログラムである。

7. コミュニケーション

東京センターでは、会員発電所にWANOをよりよく知り、有効にWANOのプログラムを活用してもらうために、会員発電所を訪問して説明会を開くキャラバンと呼ばれる広報活動を実施している。また、外部の人々にもより広くWANOを知ってもらえるよう種々の国際会議等で発表の機会を持っている。